

令和7年度自己評価計画書（最終評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年次以降の取り組み（改善策など）
1. 生徒の実態を理解した授業改善に取り組み、専門職にふさわしい実践力を身につけ、国家試験全員合格を継続する。	① 生徒に課題意識を持たせ思考する場面や、生徒同士で課題について話し合ったり、教え合ったりする活動場면을意図的に設定する。	「授業は興味深く学習意欲がわく」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	授業は興味深く学習意欲がわくと評価した生徒の割合 1年生 93.0% 2年生 91.9% 3年生 96.9% 専攻科 86.8% 全校 92.2% 評価 A	全校の肯定評価は今年度の中間評価より3%増加した。生徒同士で話し合ったり、教え合ったりする場면을適宜設定し、生徒の興味関心を高める工夫をしている。「よくあてはまる」と回答した割合の低いクラスがある。生徒の習熟度を把握し、既習事項が確実に定着するようにする。思考を深め、解決しようとする経験を積むことで、学びに対する楽しみや喜びが実感できるようにする。
	② ICT機器の活用により、授業への興味関心を引き出すとともに、生徒の主体的な思考を深める。	「ICTを活用することで理解が深まった」と自己評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	ICTを活用することで理解が深まったと自己評価した生徒の割合 1年生 100% 2年生 92.5% 3年生 98.0% 専攻科 97.1% 全校 96.9% 評価 A	全校の肯定評価は今年度の中間評価より1.4%増加した。特に1年生は中間評価より12.9%増加した。ICT機器を効果的に活用し、生徒が主体的に思考を深めることができるような発問や課題を意図的に設定した。今後も、情報収集に止まらず、得た情報を正しく解釈する力や情報モラルの育成を意識してICT機器の利活用を推進する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	〈高校生〉 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。	〈高校生〉 8月実施の模試結果 偏差値40未満の生徒 2年生： 0人 評価 A 3年生： 4人 評価 C	1年生：5年一貫校看護模試を1月に予定のため結果が出次第報告する。 2年生：5年一貫校看護模試の結果、学校順位は19校中2位。学校偏差値は基礎医学（58.4）、基礎看護（56.9）。偏差値40未満の生徒は0人である。しかし、受験校は19校と少ないことから、今後は偏差値の比較に依存せず、確実な知識の定着を目指し取り組むこととする。 3年生：全国看護科目別模試の結果、学校偏差値は、人体

		<p>〈専攻科〉 偏差値 42 未満の生徒が</p> <p>A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。</p>	<p>〈専攻科〉 専攻科 1 年生 偏差値 42 未満の生徒 0名 評価 A</p> <p>専攻科 2 年生 偏差値 42 未満の生徒 0名 評価 A</p>	<p>の機能と構造(56.1)、学校順位 58 校中 19 位、基礎看護(49.8) 学校順位 43 校中 25 位。偏差値 40 未満の生徒は 4 名であった。上位者の偏差値(79.5)、下位者の偏差値(32.0)と大きな知識の差がある。今後は、グループ学習に加え個別指導を強化することで全体の学力向上を図る。</p> <p>〈専攻科 1 年生〉 8 月の全国模試では学校偏差値 57.8、偏差値 42 未満の生徒は 2 名であったが、12 月実施の全国模試では学校偏差値 59.5、偏差値 42 未満の生徒は 0 名となった。引き続き、学習意欲を喚起させ知識の定着に向けた全体・個別指導を継続していく。</p> <p>〈専攻科 2 年生〉 5 月の全国模試では、学校偏差値 53.8、偏差値 42 未満の生徒は 2 名であったが、12 月に実施した全国模試では学校偏差値 57.2、また偏差値 42 未満の生徒は 0 名となった。看護師国家試験への意識が高まってきたことに加え、11 月からの土曜補習、グループ学習、個別補習の成果と考える。受験当日まで弱点補強、徹底的な復習を行い、全員合格を目指す。</p>
--	--	---	---	--

	<p>④ 生徒一人ひとりに応じた適切な目標を設定し、目標達成を積み重ねることで、国家試験合格に必要な知識・技術が定着するよう指導する。</p>	<p><全ての学年> 目標の級に合格しなかった生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。</p> <p><3年生> 介護福祉国家試験演習で得点率65%に満たなかった生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。</p>	<p><全ての学年> 社会福祉・介護福祉検定で目標の級に合格しなかった生徒 2人 評価：B</p> <p><3年生> 介護福祉士国家試験演習で得点率が65%に満たなかった生徒 (12月13日実施) 1名 評価：B</p>	<p><全ての学年> 1年生：3級を 6名受験し全員合格 2年生：2級を10名受験し8名合格 3年生：1級を15名受験し全員合格（1名は昨年受験し、合格。） 学習に対する苦手意識の強い生徒に対し、計画的な指導および、スモールステップにより成功体験を重ねることで、自己肯定感を育てる関わりが必要である。</p> <p><3年生> 12月13日実施の国家試験演習で1名が64%の得点率であった。個別指導、小集団指導によりクラス全体のレベルが徐々に上がっている。反面、得点率が上がったことにより、危機感が薄れ点数が安定しない生徒も見られる。自信を持って受験に臨めるように、慎重にかつ確実に、実力が身につくように指導を継続していく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>国家試験の高い合格率を維持しており教員の努力が感じられる。一方、ICT機器を活用する学習が主流になる中で、考える力・判断力を育ててほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>思考力を育てる学習として、ケーススタディ、シミュレーション演習、教科横断的な学習を通じて、考える力・判断力を育成している。情報機器やAIを活用する力も大切であるが、適切に判断し、活用する力の育成にも力を入れている。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策など）
2) 生徒会活動・部活動、ボランティア活動などを活性化させ、心身の健康とレジリエンス涵養を図り、活気ある学校づくりを推進する。	① 文化祭の企画やスポーツフェスなどの行事に縦割り班を活用し、より大きな枠組みの中で他者と継続して協働する力を育成する。	行事をきっかけに、普段の学校生活で他学年と関わるが増えたと答えた人が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	行事をきっかけに、普段の学校生活で他学年と関わるが増えたと回答した生徒の割合が 91.5% 評価A	文化祭・スポーツフェスともに学年や科の壁を越えて協働して取り組む機会を作ることができた。生徒の満足感を得ることができた要因の一つは、学年に関係なく、どの生徒にも活躍の機会がある活動が多かったことではないかと考える。次年度以降は生徒が自発的にクラス・学年・学科の壁を越えて活動に臨む姿勢を育成していきたい。
	② 生徒保健委員会活動や縦割り班活動の活性化を図り、健康に関する情報発信や啓発活動を通して生徒が自身の健康管理に関心をもち、健康観を高めていこうとする校風を形成していく。	歯科検診後に受診を勧奨し、未処置歯のある者の割合が A 20%未満 B 25%未満 C 30%未満 D 30%以上 である。 活動により、自身の健康を高めるために行動していくと答えた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	歯科検診後に未処置歯のある者の割合が12月9日時点で 17.3% 評価A <u>高校1年生の回答結果</u> 活動により、自身の健康を高めるために行動していくと回答した生徒の割合が 100% 評価 A	歯科検診後、未処置歯のある生徒の保護者宛に受診勧告書を3回（歯科検診直後、夏休み前、冬休み前）発行した。歯科受診率はR6. 11月44.9%→R7. 11月69.2%と向上し、保健委員や養護教諭、担任などの働きかけにより、生徒の自己健康管理意識を高めることができた。また、科全体で受診勧奨に協力してくれたことも健康観を高めようとする校風形成につながった。次年度も同様の活動を継続していく。 1学期に高校1年生を対象に性教育講座を実施した。生徒の関心は高く、命を大切にすることや性感染症の予防についての知識を得て、自身の健康を高めるための意識付けをすることができた。また、生徒作成の保健だよりを配信したり、保健室からの情報発信の活発化を図ったりして、生徒の健康観を涵養していく活動ができた。2学期に計画していた1年生対象の歯科保健指導は、インフルエンザ感染予防の観点から3学期に延期した。実施後、アンケート調査を行い、生徒の健康観の変化を確認していく。
	③ 長期休暇後に実施する心と体のアンケートを基にスクールカウンセラーと連携した対応を取りながら、自ら	スクールカウンセラーと連携した対応後のアンケートにより「役立った」と回答した生徒割合が A 100% B 95%以上	アンケートにより「役立った」と回答した生徒割合が 100% 評価 A	長期休暇後のアンケートで気になる生徒をピックアップし、スクールカウンセラーとの面談を実施した。その後、その面談が「役立った」と回答した生徒が24名中全員だった。アンケートの全員提出確認や面談対象のピックアップに時間が掛かり、面談のタイミングが遅くなった生徒もいたが、自分からスクールカウンセラーとの面談を言い出せない生

	が問題を解決する力を育成する。	C 90%以上 D 90%未満 である。		徒には良い機会となったようだ。今後も継続していくことにより、自分からSOSを出することができる生徒を増やすことにもなると考える。
④	生徒自身がルールやマナーの必要性を理解し、規範に基づいて主体的に判断し行動する力を身につける	「ルールやマナーが必要な理由を理解し、状況に応じた行動を考え実践することができた」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	アンケートにより、「できた」「まあできた」と回答した生徒の割合が 96.9% 評価 A	学校生活だけでなく、寮生活でもルールやマナーについて考え、行動するきっかけとなっていた。また、学校祭で生徒会執行部が中心となり呼びかけ、全校生徒が行動したことが生徒の中で「できた」という肯定感に繋がっていた。「できていない」と答えた生徒の理由には、主に個別に指導を受けたことがあげられていた。次年度以降は、行事等の特別な機会だけでなく、普段の学校生活の中で状況に応じた行動を考え、実践する力を一人ひとりが身につけるための取り組みを継続していく。
⑤	「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、相手の思いを考えて行動する意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	アンケートにより「大いに高まった」「高まった」と回答した生徒の割合が 98.4% 評価 A	日々の授業の中での尊厳や人権の学習や、実習を通して患者や利用者と実際に関わることが、生徒の「相手の思いを考えて行動する」ことへの意識づけに繋がっていた。また、否定的な回答をした生徒の理由としても、「学校生活全体が落ち着いていたため、考える機会がなかった」と答えており、生徒一人ひとりへの日々の意識づけが、いじめない学校づくりに繋がると考える。次年度も継続した意識づけを行っていく。
学校関係者評価委員会の評価		生徒の意見を聞き入れ、ダンス同好会を立ち上げるなど新しい活動は良い取り組みである。高校生活では思い出作りなど、昔とは違う現代的なつながり（休日の推し活など）も尊重してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		行事やボランティア活動を通じて、学年・学科を超えた関わりを促進している。生徒同士が支え合う関係づくりが進んでいる。		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策など）
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に工夫を重ね、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会等での説明内容と方法を工夫する。各種説明会への参加者増加に繋がる広報を強化する。	「体験入学、説明会に参加したことにより、看護・福祉に対する関心が高まった」と評価した参加者の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 である	学校説明会(7月) 100% 体験入学 (8月) 100% 地区説明会(11月)100% オープンキャンパス(12月) 100% 評価 A	学校説明会、地区説明会、体験入学、オープンキャンパスの参加者全員が看護・福祉に対する関心が高まったと回答した。本校生徒の日々の活動の様子を中心に紹介し、看護・福祉に対する興味・関心を喚起した。PTAの協力により、SNSでの本校に関する情報発信も行った。今後も、様々なメディアを駆使し、看護・福祉の魅力と必要性について広報活動を強化していく。
	② 本校の特色ある学校行事の取り組みや、衛生看護科・健康福祉科生徒の活躍を地域に向けて発信する。	高校を選択する際に本校のホームページが参考になったと答える割合が、 A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	(学校説明会結果) 大変参考になる 46.8% 参考になる 36.1% 合計 82.9% (体験入学結果) 大変参考になる 35.7% 参考になる 54.3% 合計 90% (地区説明会結果) 大変参考になる 58.3% 参考になる 37.5% 合計 95.8% 評価 A	学校説明会・体験入学及び地区説明会の参加者に対してアンケートを行った。結果は(A)70%以上の回答を得ることが出来た。春・夏・秋と3回実施したが3回とも高い数値が得られたことから、本校の特色ある学校行事の取り組みや、生徒の活躍を配信出来ていると思われる。今後は「見たことがない、参考にならない」という回答を少しでも減らしていきたいよう各科・課と連携し改善していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	地震後、能登地区ではナース不足。新病院の建設が取り上げられているが人材確保が重要。PTA役員がInstagramを開設し保護者目線で情報発信を始めた。行事に参加できない保護者も多数いるため発信内容を充実させたい。また、生徒自ら情報発信(入学してから良かった点、部活動の状況、休日の楽しみ方等)してみてもどうか？			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今年度は、地元中学校からの志願者が増加した。一定の手応えを感じている。ホームページ・SNSによる情報発信、寮生活や学校行事の可視化、生徒の活動の発信などを強化し、保護者・中学生に学校の魅力が伝わる取り組みを進めていきたい。			

